

# ワインベルグ作曲 歌劇「白痴」

191109

幕	場	場面	内容	見どころ・聴きどころ												
第1幕 120分	1	主役の出会い	公爵は、長期にわたるスイスでの治療を受けて Санктペテルブルクに戻る途中である。列車の中で、ロゴージンとレーベジェフに出会い、意気投合する。ロゴージンは、父親の200万ルーブルの財産を相続したが、ナスターシャに恋している。公爵は、生まれつきの病気のせいで女性を知らない、と言う。	公爵	ロゴージン											(1-1)
			ナスターシャは、扶養されて愛人であったトーツキーが、良家の娘と結婚する噂を聞いて嫉妬し、 Санктペテルブルクにいる彼の家に押しかけたことがある。だからトーツキーは、彼女が誰かと結婚してくれれば、安心するのである。	公爵								トーツキー				
	2	トーツキーのナスターシャに対する希望	トーツキーは、エパンチン将軍に相談し、ガブリーラと結婚させたいと考えた。トーツキーは、彼女に7万5千ルーブルの支度金を送ることになっている。そうすれば、彼は、エパンチン将軍の長女アレクサンドラと結婚するつもりである。	公爵						エパンチン将軍	トーツキー	ガブリーラ				(1-4)
			公爵は、唯一の親戚エパンチン家を、 Санктペテルブルクに訪問する。将軍の秘書ガブリーラの部屋にあるナスターシャの写真を見た公爵は、美しく神秘的な顔に驚くが、これは、ナスターシャが、ガブリーラのために与えたものである。	公爵						エパンチン将軍			ガブリーラ			
		公爵とエパンチン家の対面	公爵は、エパンチン将軍から妻と娘のアレクサンドラ、アデレード、アグラヤを紹介される。彼らは、スイスでの彼の生活に関する話に魅了されている。 公爵は、アグラヤに関して、珍しい美しさを持っているが、ナスターシャに似ている、と初対面の姉妹達のいるところで褒めるので、無神経な人と思われる。	公爵				アグラヤ		エパンチン将軍			エリザベータ夫人 アレクサンドラ アデライーデ			(1-6) 公爵とアグラヤの出会い
			アグラヤに振られるガブリーラ	アグラヤは、ガブリーラからラブレターを受け取るが、書道が得意な公爵に、「私は恋の駆け引きには応じない。」と代筆して貰って返信した。振られたガブリーラは、おしゃべりの公爵に、八つ当たりする。	公爵			アグラヤ					ガブリーラ			(1-7)
	3	ロゴージンがナスターシャに詰め寄る	ガブリーラの妹ワーリヤは、兄が、愛してもいない女性と結婚する予定なので不満である。ガブリーラへのナスターシャの急な訪問を、出迎えたのは公爵で初対面である。ガブリーラが家族にナスターシャを紹介した後、ロゴージンに率いられた酔っ払い達が、ガブリーラの家に入って来て、ナスターシャにロゴージンとの関係を質問する。彼女は、ガブリーラの家族の前で、根も葉もない話であると、平然と答える。公爵がナスターシャに「その態度は、あなたらしくない。」と指摘するので、彼女は感動する。	公爵	ロゴージン	ナスターシャ						ガブリーラ	ワーリヤ イヴォルキン将軍		(1-8) (1-9) (1-10) 公爵とナスターシャの出会い	
			男関係が盛んなナスターシャの誕生会で	ナスターシャは、自宅での誕生会の今日、ガブリーラと結婚しないことを発表した。彼女は、トーツキーに自分への手切れ金は不要と言ひ、将軍には、指輪を返すことにした。他方、ロゴージンは、ナスターシャのために10万ルーブルを用意してプロポーズした。公爵も同様に、大きな財産を相続したことを発表したうえで、ナスターシャにプロポーズした。ナスターシャは、公爵が自分の性格を理解する人だと信じているが、公爵を傷つけるこのことで結婚に同意しない。彼女はロゴージンからお金を取って、暖炉の中に放り込み、最後のチャンスとしてガブリーラに取り出すように命じるが、彼は気絶する。公爵は、インポテンツなので、人間愛しか愛情表現ができないので、ナスターシャは、ロゴージンのプロポーズを受け入れる。	公爵	ロゴージン	ナスターシャ				トーツキー	ガブリーラ	プチーティン マルファ ダーリヤ ドクトレニコ シチャ公爵 ラトムスキー公爵		(1-16)	

幕	場	場面	内容								見どころ・聴きどころ	
第2幕 70分	5	ロゴージンから婚前逃亡するナスターシャ	ナスターシャは、ロゴージンから婚前逃亡して公爵と同居したが、公爵からも逃げ出した。彼女は、同じ事をもう一度繰り返した後、六ヶ月後の現在、彼女はロゴージンと暮らしている。ロゴージンは、ナスターシャの愛を確信していて、公爵も、自分は同情の愛であり嫉妬は不要、と納得させる。公爵とロゴージンは、十字架を交換し合った兄弟でもある。	公爵	ロゴージン	ナスターシャ					(2-3)	
	6		公爵は、久し振りにてんかんの発作を起したが、レーベジェフの田舎の家で、公爵は発作から回復した。エバンチン将軍一家が彼を訪ねてきた。 アグラーヤは「貧しい騎士」についてバラードを歌う。 エリザヴェータ夫人は、アグラーヤと公爵との結婚は認めない、と言う。 しかし、アグラーヤが公爵に出入り禁止の手紙を送ったことを知ったエリザヴェータ夫人は、裏読みして心配する。							エリザヴェータ夫人 アレクサンドラ アテライーテ	(2-5) (2-6) (2-7) (2-12)	
	7	アグラーヤから公爵へのプロポーズ	アグラーヤは、手紙で公園に公爵と待ち合わせて、家から逃げ出したいと訴える。しかし、公爵が、ナスターシャと一緒に住んでいたということもあり、彼女は混乱している。アグラーヤは、ナスターシャから毎日手紙が来て、公爵と結婚するように書かれている。アグラーヤは、ナスターシャが今度また、無責任な手紙を自分に出したら、強硬手段を執る、と伝えるように、公爵に言う。公爵は、ナスターシャと愛しあうことができないので、ナスターシャが破滅する、と言う。	公爵							(3-8)	
	8		エバンチン将軍は、公爵がアグラーヤの婚約者というニュースを受け取り、混乱している。そこで、アグラーヤは公爵に求婚の意思を問いただすと、公爵はアグラーヤだけを愛しているため、結婚を申し込みます、と答える。イポリートは、公爵に、アグラーヤがナスターシャに会うことを知らせる。	公爵					エバンチン将軍		エリザヴェータ夫人 アレクサンドラ アテライーテ	(4-5) (4-8)
	9	ナスターシャとアグラーヤの口喧嘩	ナスターシャは、アグラーヤに呼び出され、公爵とロゴージンの立会いで、面談する。ナスターシャから公爵を守る一心のアグラーヤは、自分宛の手紙を書く理由を問うが、ナスターシャはそれには答えずに、双方、感情的な口論となる。アグラーヤは、公爵から非難されたので興奮して出て行く。公爵が追うが、ナスターシャは彼の腕に倒れ込むので、公爵はアグラーヤを追えなかった。ロゴージンが出て行ったので、やむを得ずナスターシャの看病に残った。ナスターシャの異に引っかかりアグラーヤを追わなかった公爵は、その一時間後にエバンチン家に行き追いかけたがアグラーヤは留守で、アグラーヤを愛する人々から嫌われ、絶縁されるようになった。ナスターシャと公爵は、二週間後に挙式する予定であったが、公爵もまた、ロゴージンと一緒に、ナスターシャに婚前逃亡された。その後、アグラーヤは、家族の猛反対を無視して、パリで愛国的な亡命ポーランド人と結婚した。公爵は、知的気管が損傷し、スイスで治療を再開することになった。	公爵	ロゴージン	ナスターシャ						(4-8) (4-9) (4-10)
	10	ナスターシャの死	ナスターシャを探している公爵は、不審に思いロゴージンに質問するが、ナスターシャをナイフで殺したという。二人は、ナスターシャの遺体のそばで一晩過ごす。目撃者がいたのでロゴージンは逮捕され、シベリア流刑となった。	公爵	ロゴージン							(4-12)

(注)紙の音がするので、開幕中は、このA4紙をしまってください。